

第6回おおたユニバーサルデザインのまちづくり区民推進会議  
議事録要旨

平成26年2月21日(金)

10時00分～12時00分

会場：大田区立消費者生活センター 2階 大集会室

[配布資料]

資料1 平成25年度おおたユニバーサルデザインのまちづくり事業報告

別添資料 合同点検報告会資料(嶺町小学校、蘇峰公園)

区報(2月11日号)

心のバリアフリー普及啓発用ちらし

冊子「心のバリアフリーハンドブック」(最終案)

ヘルプカード

パンフレット「ユニバーサル駅伝」

参考資料 冊子「大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針」

冊子「まちに出よう おでかけアシストブック」

[出席者]

(区民推進会議委員) 14名

産業能率大学教授 齊藤委員/お茶の水女子大学大学院准教授 松田委員/公募 大内委員/公募 李委員/NPO 法人大身連 宮澤委員/大田区知的障害者育成会 佐々木委員/レモンホームケアサービス 柳谷委員/大森駅東地区近代化協議会 堀委員/NPO 法人男女共同参画おおた 古澤委員/NPO 法人 日本語ぐるりっと 飯島委員/大田区商店街連合会 鷹西委員/大田観光協会 鳴島委員/東日本旅客鉄道株式会社 町野委員/京浜急行電鉄株式会社 島村委員(代理)

(庁内推進委員) 14名

福祉部長/まちづくり管理課長/広報課長/計画調整担当課長(代理)/施設管理課長/国際都市担当課長/観光課長/高齢福祉課長/障害者施設計画担当課長/子育て支援課長(代理)/住宅課長/都市基盤管理課長/連続立体事業再開発担当課長/教育委員会副参事(事務局)

福祉管理課長/福祉管理課担当係長/福祉管理課担当/まちづくり管理課担当係長/まちづくり管理課担当

(傍聴者) 2名

## [次第]

### 1 開会

開会のあいさつ 福祉部福祉管理課長

### 2 福祉部長あいさつ

### 3 会長あいさつ

### 4 【議 題】

(会長)

次第のとおり進めていきたいと思っております。それでは、資料1「平成25年度おたユニバーサルデザインのまちづくり事業報告」に基づき、事務局の方から説明をいただきたいと思っております。

事務局より説明

- (1) 総合的な学習の時間支援事業について (p1～p9)
- (2) UDパートナー事業について (p10～p12)
- (3) 普及・啓発の取組みについて (p13～p29)

(会長)

ただいま、総合的な学習の時間支援事業、UDパートナー事業、普及・啓発の取組みについてご報告をいただきましたが、内容についてご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

(A委員)

ヘルプカードのことについてお聞きします。私は、外国につながる人に関わる活動をしています。そうした立場からお聞きしますが、ヘルプカードは障害のある方を対象に配られていると認識しましたが、外国の方も使用することを考えられているのでしょうか。

(障害者施設計画担当課長)

ヘルプカードは、大田区自立支援協議会の防災部会で4年前から災害時に障害者だとわかるものがほしいということで検討を進めてきたところ、東京都の取組みとも合致して、お示ししたヘルプカードとなってきた経緯があります。こうした流れで、現時点では、障害のある方が主な対象としたカードとなっています。一方、いろいろな会議で周知のご報告をする中で、高齢者の方や妊娠初期の方などにも使っていただきたいという意見もあり、カード配布の主な対象は障害のある方ですが、ご案内は希望する方にお使いいただけるよう周知をしています。用紙を開いていただければわかりますように、障がいの状況を記載するような内容になっていますので、高齢の方、妊娠初期の方、外国の方などが広く使えるようになる」とすると、書式の内容を改める必要が出てくると考えています。この会議で、この書式を参考にいろいろなバージョンを考えていただくのもいいのではと考えています。

(A委員)

ヘルプカードの記載事項を見ましたが、見直しも必要ですし、今後、検討していく必要もあると思っておりますが、持っていれば気軽にたすけてくださいという意味では、

今でも、使えるのではないかと思いました。

(会長)

部会の報告をお願いします。最初に松田委員の方から推進部会の報告をお願いします。

・UD推進部会報告

松田委員（UD推進部会長）より資料1（30ページから）について説明

(会長)

UD推進部会の報告について、何かありましたらお願いします。

(B委員)

松田部会長のお話をお伺いしてそうだなと思ったことがありました。それは計画の段階でねらいをどういうふうを設定するのか、実際に使う方たちがそれをどう実感するのか。これをつなぐところの“しくみ”をどのように作っていくのかが大切だと思いました。スパイラルアップのしくみについては、どのようになっているのでしょうか。

(C委員)

建設中のUD点検の試みは、非常に良い試みだと思っています。推進部会としては、いろいろなところをお願いしながらこの試みが継続されるような“しくみ”を提案していきたいと考えています。

(会長)

大変わかりやすい取り組みだと思います。1分の1のモデルを使いながら、より使いやすい施設づくりをしていくのは重要ですので、是非、継続して行っていただきたいと思います。それでは、佐々木委員からUD普及部会の報告をお願いします。

・UD普及部会報告

佐々木委員（UD普及部会長）より資料1（38ページから）について説明。

(会長)

普及部会のメンバーで内容について吟味をしていただき「心のバリアフリーハンドブック」のたたき台を作成しました。最初のころからに比べて理解しやすい内容になったと個人的に思っています。さらに委員の皆さんからお気づきの点等ありましたら、内容をわかりやすくする面からご意見をいただければと思います。

(D委員)

最後のところでミックスおたを紹介していただいているのであれば、ミックス大田の“mics”が何の略なのかを紹介していただければと思います。

(A委員)

“わかりやすい日本語”という表現ですが、通常、親切に外国の人に伝わりやすい様にいろいろな説明を加えて説明することをいうように思っている人が多いと思います。実は、公的機関でも、“やさしい日本語”という表現が普及されつつあると思いますが、区役所の中ではないかがでしょうか。公文書などにも従来の日本語の書き

方から、やさしい日本語を使って表現しようという表現があると思います。外国の方に日本語を教育、指導する文科省、文化庁でも使っていることばです。わたしとしては、“やさしい日本語”を使いたいと思っています。行政としては、“やさしい日本語”の普及度合いをみて、“わかりやすい日本語”の方がいいと思われたのだと思いますが……。それから、D 委員から“ミックスおおた”について意見がありました。 “mics”は何の略なのか紹介するのはいいと思いました。

(国際都市担当課長)

A 委員から指摘のありました“わかりやすい日本語”という表現ですが、考え方はいろいろあるかと思いますが、当初は非漢字圏の外国人などの方に理解していただく日本語ということで“わかる日本語”ということも考えましたが、“わかる日本語”という表現もわかりにくいので“わかりやすい日本語”という表現としました。

(C 委員)

配布対象は、どなたになるのでしょうか。

(E 委員)

広く区民ではありますが、主な対象は、福祉体験学習等を実施した小中学校の児童、生徒のみなさんになります。

(C 委員)

言葉に対する考え方はいろいろあると思いますが、子供たちがわかりやすいかどうかだと思います。正直“わかりやすい”も“やさしい”もどちらも変わらないと思います。ただ、子供たちに伝わりやすいのは、どちらかというところ“やさしい”という方が難しいのではないかと思います。また、子供たちに伝える言葉と公文書でのことば使いは違うのではないかと思います。

(A 委員)

絶対的に“わかりやすい日本語”がいいというのでなければ、むずかしいかもしれませんが“やさしい日本語”という表現にしていきたいと思います。“やさしい日本語”とは、むずかしい文法を使わない、むずかしい表現を使わない、日本人だったらだれもが知っている熟語を使わないことです。それが“わかりやすい日本語”になると、たぶん、それを説明することになると思います。

(C 委員)

私の感覚ですと“やさしい”は、相手の知的能力を下げていると感じています。“わかりやすい”は、知的レベルを保ちながら相手に伝えるような表現を考える。そう言う意味で、私は“やさしい日本語”という表現の採用はやめたほうがいいと思います。

(B 委員)

普及部会では、わたしの実体験、子育て、外国旅行での経験で、“you understand?” “理解しましたか”という意味で、“わかりやすい”ではいかがですかと発言をしました。“やさしい”ということばを使った場合、相手にどのような問いかけになるのでしょうか。

(会長)

ことばは、なかなか難しい。たぶん、“やさしい”というのと、少し説明が必要になると思います。“わかりやすい”ということであれば、わかりやすい説明をすればいいのであって、“やさしい”というのとさらにどのようなといった説明が必要になる。どちらが良いか悪いかではないですが、具体的に伝えるという意味では、私も“わかりやすい”の方が伝わるように思います。“やさしい”だと抽象的になってしまうように思います。

(A 委員)

“やさしい”として“注”をつける。例えば、“いろいろな説明を付け加えたりしないで、できるだけ簡単な日本語で短く行ってください。”といった“注”をつけるのでは、どうでしょうか。

(E 委員)

A 委員のいうこともわかりますが、紙だけで伝えるのはすごくむずかしいと思います。健常の大人でも目で読んだものは以外と入ってこない。“やさしい日本語”の意味がわかっていない子供たちに、わかりやく伝えるのであれば“わかりやすい日本語”の方がいいかなと思います。わたしたちが、知的障がい理解のためのワークショップで伝える場合、パワーポイントで絵とかを出して、こういうのをみんな考えてみてねとお話をして伝えています。紙だけで小学校4年生に伝えるのは、難しいかなと思います。ただ、この冊子を検討する中で各障がいのところでは、みなさん、それぞれ伝えたいことがありました。ここのところも、A 委員と事務局とわたしどもともういちど検討をするということはどうでしょうか。

(会長)

先ほどC委員も言っていましたが、これは、まず、子供たちが見てわかるような内容が第一点、それからこれだけでは語られない部分がたくさんあります。この文字、この文字と入れていけばどんどん増えていく。基本的な部分を理解してもらうのが、ハンドブックの役割です。足りない部分は、いま言いましたように説明であり、会話であり、コミュニケーションです。そちらと合わせて考えていくということで検討していただければと思います。そのほかに、なにかありますでしょうか。

(F 委員)

さきほど事務局の方からエスカレーターのちらし（心のバリアフリー啓発用ちらし）の説明がありました。少しご報告させていただきます。前回の会議で、エスカレーターのキャンペーンをやろうとお話させていただきましたが、このちらしをNPO 法人大身連が中心となって区民の方の参加を得て、JR 蒲田駅東口、西口でちらしの配布を始めています。2月13日（木）第1回、昨日、20日（木）に第2回目を、一人20枚くらいですが20人から30人くらいで配っていただきました。今度の27日（木）も配布を予定しています。これは、“エスカレーターに乗るときは思いやり”をもって利用してくださいという呼びかけです。ご参加等していただければと思います。以上、報告です。

(G 委員)

区商連の役員会でも、UD の理解度が少ないとお話させていただいています。このように区報に載せていただくということは結構なことだと思います。区商連としてお手伝いさせていただくことは少ないのですが、宮澤委員からエスカレーターの乗り方で教えていただきました。配り物がありましたら是非、毎月、月末にあります区商連の役員会で配るようご協力させていただきます。

(会長)

ハンドブックの色使いについては、特別なチェックが必要だと思います。こちらの方の検討もよろしく願います。

(E 委員)

色使いについては、もう少し淡い色にしたいと考えています。

(H 委員)

私どもの“ユニバーサル駅伝大会”では、小中高校生 150 名、大学・専門学校生 60 名、一般のボランティア 100 名の方に事前に研修を受けてもらいます。このハンドブックが、その研修の参考になるかと思っています。

(会長)

いろいろなところで活用していただければと思います。

(I 委員)

ハンドブックの大きさはどの程度でしょうか。参考までに、わが社でもいろいろなマニュアル等をハンドブックにしていますが A4 だとなかなか持ち歩いてもらえません。社員に見てもらうため定期券のサイズから、この内容の程度ですと A5 サイズにしているものがあります。ハンドブックの主旨からもう少し持ち運びしやすいサイズにしてもいいのではと思います。サイズについて、ご検討をしていただければと思います。

(J 委員)

今のご意見ですが、私も賛成ですが、ただ小学生の授業ということを考えると、A4 版に慣れていること、あまり小さいと見にくいこともあるので小学生にはこの大きさがいいのかなと思います。是非、予算を取っていただき一般向けに小さいハンドブックを作っていただければと思います。一般向けには、今後の問題になると思いますが、先程から出ていますが、これをただ配布するのではなく、いろいろな部分でコメントが必要などころがあると感じますので検討が必要だと思います。

(会長)

今すぐに変更はむずかしいだと思いますが、今後、一般の区民に普及させていくためにはよりハンディな形も必要ですし、大事なものは渡して、置いておいても仕方がないので、声をだしてハンドブックと一緒に考えていくしくみも是非、考えていかなければならない。それから、いままでハンドブックについていただいた意見は、事務局と部会でまとめていただくということにしたいと思います。ご賛同、よろしく願います。

それでは、H 委員からユニバーサル駅伝の報告をお願いします。

(H 委員)

ユニバーサル駅伝大会ですが、大田区のご協力をいただき、昨年、9月29日に第6回大会になりますが、これが東京都の国体のデモンストレーションスポーツとして開催されました。“支え合う社会を作ろう”というスローガンを、皆様にアピールできたことを嬉しく思っています。お手元にあるパンフレットは、2000部ほど作成し各方面に配布させていただいています。東京パラリンピックに向けて準備し、できれば東京23区に、そして世界にこの大会を広めて行きたいという思いを持っています。ユニバーサルスポーツということで、室内でやるユニバーサルボウリング大会も4回目です。そのほか、三角ベースボール。こうしたものも広めていきたい。スポーツをツールとして、違いを認め合って、理解して、支え合うユニバーサル社会を目指していきたいと考えています。今年は6月1日に開催します、是非、みなさんの参加をお願いします。

(会長)

資料の裏表紙に書いてあります。開催予定で、三角ベースボールが3月21日、第7回のユニバーサル駅伝が6月1日となっています。是非、みなさん、ご参加していただければと思います。最初に事務局からご説明ありましたが、ハンドブックについてご意見がある場合は、2月28日までに事務局までご意見をいただければと思います。

以上で第6回のUD区民推進会議を終了したいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

斉藤会長ありがとうございました。このメンバーで推進会議を行うのは、この会議が最後となります。委員の皆様の任期が3月末までとなっているため、新たに団体の方にはご推薦をいただき、また公募をしていきたいと思っております。2年間、ありがとうございました。なお、次回の推進会議は、7月頃に開催したいと考えています。本日の会議は、これにて終了します。ありがとうございました。

